

環境教育講座

整理番号: 20260130

イベント名	循環型社会の実現に向けた環境行動	
実施内容		
活動日時	2026年1月30日(金) 10:00～11:00	
活動場所	浜松市西部清掃工場 啓発施設「えこはま」	
活動者名	高根美保	
詳細	①ごみってなに? 廃棄物処理法について ②浜松市の現状と家庭ごみ減量について ③3R行動について(リユース行動内容紹介) ④「えこはま」活動事例紹介(気づきから実践行動へ向けた啓発活動)	



事業の様子 成果	<p>参加者: 豊田市環境学習施設eco-T 33名 配布物: スッキリエコ自慢、ごみ減量リーフレット、食品ロス削減メモ帳、雑がみPP 依頼内容: 豊田市の清掃工場で見学者対応や環境学習事業を行っているスタッフへの活動紹介</p> <p><参加者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOが活動していても、エコットとは、スタイルが違っていることが分かった。 ・ごみを減らす期限や量が具体的で、新しく建てる工場もそれに合わせて小さくすると聞いて、驚きました。企業を巻き込んでの活動の広がりにも驚きました。ここで、いろいろなものを回収して、足を運ぶ市民が多くなるような仕組みができていると思いました。 ・「ごみ＝不要になったもの」という話から始めて、分かりやすかった。工場の規模を小さくして、処理量を減らすことで処理にかかる税負担を減らすという考え方もあることに気づかされた。久しぶりにHigh Moonを見て、エコットでも、もう一度学ぶ機会があればと思った。 ・市民と地域企業まで巻き込んで環境問題を考えていくことは、これからの浜松市にとって、なくてはならない人物(女城主)ではないかと思いました。4年後には、新しい環境施設に生まれ変わるようですが、天竜エコテラスと同等か、それ以上の近未来を見据えた地域に誇れる循環型の環境施設をつくってほしいと願っています。 ・豊田市の分別とは違っていたのが、紙製のカップ、コップを集めてダンボールへリサイクルされていること。各自治体と企業が連携し、より強いリサイクルができることが分かった。 ・ごみを減らす活動で、多くのメーカーと共同でリサイクルに取り組む活動は、エコットも参考にすると良い。 ・ごみの定義をしており、ごみを理論的にとらえていて感心した。雑紙アートは、まねしてみると良い。 ・私たちのごみに対する責任と義務を学びました。 ・冒頭に「ごみって、何?」という言葉の定義から参加者に考えてもらって、法律、市民に課せられた責任、えこはまの存在理由につなげる説明の流れがおもしろく、ためになりました。 ・正しいリサイクル、この言葉は、とても大切だと思いました。 ・ごみ減量の目標を明確にし、それに向けて具体的な取り組みもいろいろな企業、市民と協力して実践している点が素晴らしく、豊田市としても見習っていけると良いと思いました。 ・4年生の工場見学で、一人一人がリサイクル品を持ってくるというのは、子どもたちの意識向上にとっても良いと思いました。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内でハブラシリサイクル事業に参加することになった。
-------------	--

記録添付

